

佑啓

ゆうけい

発行者

社会福祉法人 佑啓会

理事長 里見 吉英

〒290-0265

千葉県市原市今富 1110-1

TEL 0436-36-7611

FAX 0436-36-7612

編集者 広報委員会

父から子へ、大先輩から後輩へ

～受け取るバトンの重み～

宮崎 理

もう何年経ったのか。佑啓会の広報委員会として、毎回佑啓の発行に携わり、紙面の構成や内容のチェックを行っている。SNSでの情報発信の速さや、その反響も分析しつつ、様々な形での広報活動の一翼を担ってきた。その中でも、佑啓はA3の紙面に法人の理念や家族の思い、各行事など読みやすく、タイムリーな紙面作りをモットーに年4回発行し、紙面構成にこだわりを持って取り組んできた。担当内では一〇〇号を特別号で発行する案もあったが、里見理事長は通過点と言わんばかりに、いつもと変わらない紙面構成をとる指示。特別なことよりも、継続することの大切さ、一〇〇号を祝うことよりも、もっと大切なこと、福祉は地味に地道に・・・。

めるとキリがない。まずは、最近あった些細な出来事から。

~~~~~

決して多いとは言えない家族との時間。ドイツ・ニーランドに出掛けた帰りの車内で、月明りを見ながら運転していた時、突然6歳の娘が言った。「お父ちゃん！月が追いかけてくるよ」動く車内からまん丸お月様を見て、発した我が子の言葉。夢の国で魔法にかかったせいかな、その感性に我が子ながら微笑ましさを感じ、このままでいてほしいと思った。バカ親の極みである。自分が幼少の頃は心のアンテナが低く、親を感激させるような感性は持ち合わせていなかった。

~~~~~

自分の父親は地方公務員で遊園地に行くにもスーツを着用し、小学生の頃は学校で毎回頭題だった「8時だよ！全員集合」オレたちひょうきん族」はくだらないと言

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

って、全く見せてくれない真面目で怖い父親でしかなかった。母親は生け花を自宅で教え、家の押し入れの半分以上は花器でいっぱいだった。整理しきれない生け花の道具の事で親が喧嘩したことをよく覚えている。



自分史を語る上で、海外旅行の思い出は外せない。十五年勤続表彰で、法人より海外旅行のご褒美を頂き、里見理事長と伊東主任の3人でエジプトまで出掛けました。エジプトの8日間。カイロから始まり数々の遺跡を見てイスラムの世界観を感じ、神々の話、死後の世界の奥深さ等を知った。旅の中盤ではナイル川を大型客船で悠々と移動し、停泊する先々で観光、そして再び船のテラスでのんびり過ごす3日間。最終日はカイロでも有数の高級ホテルに宿泊し贅沢且つ貴重な時間を過ごした。

~~~~~

そして、新人時代には、長尾係長の父親がロシアの日本人学校に赴任していたこともあり、これまで里見理事長と長尾係長の3人でロシアを旅したことも懐かしい思い出。当初、里見理事長と長尾係長は、誰を誘おうかと考えた結果、なぜか宮崎を指名して3人で行くことに・・・。

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

ア鉄道の寝台列車で移動し、白鳥の湖を鑑賞した。今、考えれば残念なことだが、よく寝たことしか覚えていない・・・。

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



~~~~~



~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

(ふる里学舎アネッサ  
ダイセセンター施設長)

## 山下智子



入院中、小五の息子がふる里  
学舎での短期入所を経験させて  
もらい、手術ができました。自  
分の親にも頼めない事をしてい  
たとき、本当に感謝しています。

「ここから、私の人生は、がらりと変わり、今までの育て方の見直しを始めました。息子は、自閉症でダウン症ですが、自立はもちろんの事、オムツを外す、

つつい溺愛しているの、息子を客観的に見るようにしました。食事管理ができていますか、

たり過ぎていないか、歯や顔がしつかり洗えているか、髪は整えてカットできているか、肌は乾燥していないか、用途に合わせた洋服や流行を取り入れたりなど。

息子ももうすぐ中学生。色気づく年だし、もっとおしやれも

楽しんで生活してもらいたい。「障害があるから」の言い訳はやめました。毎日鏡をしつかり見せ、身だしなみを教えています。

外出先で人の目に怯えていた私は、いけません。胸張って息子を聞けりかしたいです。息子をお互いに良い関係でいられるように、全部丸投げじゃなく、家族一緒に努力していこうと思います。



バレー部県大会

川島 佑果子

高揚した笑顔のふる里学舎の選手たち、涙して喜ぶ大応援団。昨年の千葉県知的障害者福祉協会職員交流バレーボール大会の一回戦、みずほ学園に勝利した時の光景は未だに色濃く覚えています。

ほ学園。体格も技術も格上の相手。しかし、ふる里学舎は怯まずに試合に挑み、チーム一体となって戦いました。私はがむしやらにボールを追いかけ、緊張と興奮で試合内容はほとんど覚えていません。しかし、コート内の選手の笑顔も、ベンチから聞こえるどの法人にも負けない応援の声、そしてコート内でハイタッチをして喜んだ勝利の瞬間……。私のバレー人生においても、強く印象に残る歓喜の瞬間となりました。優勝候補のみずは学園との熱戦に勝利した勢いのまま、念願の優勝を果たしたふる里学舎バレー部。試合終了後、そして後日。ふたたび、ふたたびの兄

ど喜ばしいものなのか、身に染みて感じました。

そんな前回大会から早一年が過ぎ、右も左もわからず、オロオロしてばかりのアルバイト学生だった私も、おかげさまで社会人へと成長しました。法人内バレーや四バレー大会を経験し、バレー部としての意識も昨年と比べて格段に異なります。新しいユニフォームも作っていただき、試合への心意気も高まります。

地区大会を経て、ふる里学舎からは、市原、松香園、和田浦の三チームが県大会出場となりました。試合は、三チーム揃って一回戦突破。松香園、和田浦チームは二回



昨年の県大会は、ふる里学舎バレー部として臨んだ初めての大会となりました。初戦の相手はなんと大会八連覇中、優勝候補のみず

そていよいよ、みずほ学園との決勝対決。相変わらずセンスの光るバレエを繰り広げ、こちらの隙をついた攻撃を仕掛けてきます桁違いのチームだと感じて昨年よりも、メンバーをそろえて守りより強化され、さらにレベルアップしていました。しかしる里学舎のスパイク陣も相手コートに鋭いスパイクを打ちつけ、レシーバー陣は強烈なスパイクやサーブに対して体を張って上げます。ふる里学舎自慢のサーブも炸裂し、奮闘したものの、あつという間に試合終了の笛が鳴り、みずほ学園の優勝となりました。

そして最後に、バレエボール大会を無事終え、支えてくださった方々への感謝の気持ちをお伝えしたいです。大好きなバレエボールを続けられる環境をくださった理事長。心温まる声掛けをしてくださるバレエ部の先輩。バレエの練習があれば、「がんばって」と送り出してくださる職場の先輩。大会当日、職場を守ってくくださった職員の方々。ありがとうございます。どうか、これからもバレエがしたいという私のわがままを見守ってください。

（ふる里学舎五井 支援員）

(ふる里学舎五井 支援員)

「強い」と感じるとともに湧いてくる、「悔しい」という感情。去年、念願の優勝を果たしたふる里学舎も、またもや追いかける番となりました。しかし、敗北があるからこその自分たちを見直し、レベルアップが図られることと思います。負けず嫌いが揃うふる里学舎バレー部。個人的な反省もたくさん残りますが、この悔しさをバネに、次回大会に向けての一回一回の練習を大切に、技術アップに励んでいきたいと思います。

今年もあつという間に十二月。

編集後記

A group of approximately 30 people, mostly young adults, are posing for a group photo in a large indoor arena. They are arranged in several rows, with some standing and some kneeling or sitting in the front. The arena has a high ceiling with many bright lights and rows of blue seats in the background. The people are dressed in casual winter clothing. Some are holding a small white sign or certificate. The overall atmosphere is cheerful and professional.

仕事に対する真剣さはもちろん遊びや趣味にも真剣に取り組み、嬉しいとき、楽しいときには身体中で喜び方を教えてくださるふる里学舎の先輩職員の方々。仕事も遊びも全力で楽しむ、そんな素敵な職場環境の中で、バレーボールという夢になれることがあることを幸せに思います。

ネッサで直属の上司としてお世話になった宮崎係長が今年、施設長に。お祝いと言わんばかりに一面の担当が宮崎係長に決定した次第です。違う事業所の職員が協力して一つの物を創る。改めて佐啓会**の強みを実感しました。**

少し早いですが、今年一年あ



編集後記



し早いですが、今年一年あ  
とうございました。来年も、  
くお願い致します。

いお年をお迎えください。

ふる里学舎五井 蘭田 真